



TITLE:

絨毛組織細胞内Gonadotropinの生物学的性質に関する研究(  
Abstract\_要旨)

AUTHOR(S):

宮本, 海雄

---

CITATION:

宮本, 海雄. 絨毛組織細胞内Gonadotropinの生物学的性質に関する研究.  
京都大学, 1967, 医学博士

ISSUE DATE:

1967-11-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/212359>

RIGHT:

氏 名	宮 本 海 雄 みや もと うみ お
学位の種類	医 学 博 士
学位記番号	医 博 第 318 号
学位授与の日付	昭 和 42 年 11 月 24 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	医 学 研 究 科 外 科 系 専 攻
学位論文題目	絨毛組織細胞内 Gonadotropin の生物学的性質に関する 研究

論文調査委員 (主査) 教授 西村敏雄 教授 岡本耕造 教授 早石 修

### 論 文 内 容 の 要 旨

正常人絨毛組織及び胎状奇胎を homogenize し、遠心沈殿後、上清分画を得、その ethanol 沈殿物の acetone-ether 乾燥粉末及び尿中 HCG、HMG 製剤を澱粉粒子を用いた Zone electrophoresis で分画し、各分画の gonadotropin 活性を、幼若ラット精嚢腺重量法、幼若ラット前立腺前葉重量法、幼若ラット卵巣重量法及び Steelman & Pohley 法で検定し、次の結果を得た。

- (1) HCG は少なくとも、二つのComponents に分れ (G-A, G-B)、G-A は主に黄体化作用 (間質細胞刺激作用) を、G-B は主に卵胞刺激作用を持つ。
- (2) G-A, G-B は電気泳動をくり返す事により、電気泳動的に homogeneous になる。
- (3) 妊娠初期の絨毛組織は、卵巣重量法で、assay すると、G-B dominant であるが、末期のそれは、G-A dominant である。
- (4) Steelman & Pohley 法で、assay すると、妊娠初期胎状奇胎は妊娠初期正常絨毛組織より、G-B dominant であり、胎状奇胎には正常絨毛組織では認められない、特異な生物学的活性を持った Component が認められる。
- (5) Gonadotropin の尿素変性試験及び RDE 消化試験の結果から、絨毛組織細胞内 HCG と尿中 HCG、尿中 HCG の G-A と尿中 HMG の G-A に何らかの差のあることが推定される。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

著者は正常人絨毛組織および胎状奇胎組織を homogenize し、遠心後上清分画につき ethanol 沈殿物の acetone-ether 乾燥粉末を作製、一方尿中 HCG、HMG 製剤については starch zone electrophoresis で分画し、それぞれの分画の gonadotropin 活性を幼若ラット精嚢腺重量法、幼若ラット前立腺前葉重量法、幼若ラット卵巣重量法、Steelman & Pohly 法で検定し、比較検討したのである。すなわち HCG には G-A (黄体化作用)、G-B (FSH作用) の二つの component があり初期正常絨毛組織では G-B

dominant であるに対し末期のそれでは G-A dominant であり同じく初期でも胞状奇胎組織では一層 G-B dominant でありこの際には正常絨毛組織には認められないこれに類する component のあることがわかった。さらにそれぞれの分画につき尿素変性試験および receptor destroying enzyme 消化試験を行ない同様に上述のそれぞれの検定操作を行ない少なくとも絨毛組織内 HCG と尿中 HCG の間、また尿中 HCG, 尿中 HMG の G-A の間に生物学的活性の面においてなんらかの相異のあることを示唆したのである。

本論文は学術上有益であって医学博士の学位論文として価値あるものと認定する。